

もうすぐ  
御柱！

# 御柱と女性 三二知識

みんな  
知ってる？

本年は御柱の年です。年明けと共に御柱に向けて動きが活発化しています。前回の御柱では、女性が初めて下社の建て御柱にりましたが、女性が御柱に参加するようになったのは何時頃からでしょう。文献によると、明治以降大正・昭和の初めまで女性は御柱のために新調した一張羅を着て見物に出かけていたようです。昭和19年の御柱祭は戦時下で男性が少なかったため、国民学校の児童や女性も曳行に参加したようです。諏訪市博物館の資料によると、戦後初の昭和25年の御柱の際に各市町村の氏子会で次のような取り決めがなされています。

「夫人の奉曳は、これを歓迎するものとする。」(郡の大総代会の決議)

宮坂 清通著 『諏訪の御柱祭』より

「従来の伝統の中に時代の世論を受け入れ、経費の節約・祭典の簡素化等をあげ、特に男女同権の風潮に基づいて、従来女性の参加を認めなかったものを、今回より女性の自由意志による奉仕を認め、この結果女子青年団または婦人会も参加したことは御柱祭に特筆すべきことであった。」  
宮坂 清通著 『御柱大祭の研究』より

これ以降女性も曳行に参加するようになりました。また、御柱にはお接待という役割がありますが、従来からその役割を女性が主に担ってきています。御柱が通る街道沿いの家では、今も昔も祭りの期間だけでなく大変な日々が続くと聞きます。

もうひとつ、女性が早くから参加してきたことに木遣りがあります。昭和7年には女性木遣りの高く美しい声山里に響き、以来ずっと男女の別なく木遣りは唄われています。



昭和19年  
下社里曳き祭  
(諏訪市博物館蔵)  
学校単位で動員された子どもたち



昭和25年 上社里曳き祭  
(諏訪市博物館蔵)  
女性も子供も曳き綱について

今年の御柱祭も男性も女性も区別なくみんなで参加し、事故なく楽しむ祭りでありたいものです。

## 編集後記

今年は7年に一度の御柱祭の年です。諏訪大社が4月から、秋には各地区の御柱祭(小宮祭)が一斉に行われます。諏訪地方の氏子のみなさんがこぞって参加し、観光客も大勢訪れます。まさに1年中祭り一色になります。御柱祭がいつから行われたか定かでないようですが、歴史のある天下の大祭です。今号はこの節目の年に、「御柱と女性」と題して、記事を掲載しました。まさに老若男女が祭りに繰り出し、この不況を吹き飛ばしたいものです。

ご意見お問い合わせは — ◆諏訪市まちづくり・男女共同参画推進課 TEL 52-4141 内線289  
E-mail machi-danjo@city.suwa.nagano.jp



## 地区交流会 ~ひとひとともに築く地域社会~



10月15日尾玉町公民館

男女共同参画市民協議会では、区政執行機関への女性の参画を推進するために、意見交換や学習会を開催するお手伝いをさせていただいています。



10月29日桑原公民館

## 地区交流会 受付中



薄暗くなった夕方、公民館におじゃましました。区の役員を経験した市民協議会の女性メンバーが経験を語ることから会議が始まりました。集まっていた役員の方々は、時代の変化もあり女性役員の登用の必要性を感じておられるようでした。今までの交流会では、「女性の参加意識が低い」との意見が出されたこともありましたが、今回は「本当にそうだろうか？」など疑問の声も出されました。どの区も、文化・公民館活動は女性のほうが活発です。賢く、元気な女性をいかに惹きつけ、引き込むか、ただ待つだけでなく具体的な実行方策を構築する必要があります。区長さんの「役員に女性が加われば、区会が楽しくなるでしょうね」との言葉にほのぼのとした温かい気持ちになり、すっかり暗くなった中、家路を急ぎました。



# 『世界がもし100人の村だったら』

## 著者が語る驚きの真実

5人に  
ひとりが  
飢え

7人に  
ひとりが  
文字が  
読めない

11月14日(土)作家で翻訳家の池田香代子さんに著作の「世界がもし100人の村だったら」をテーマに講演いただきました。市内外からの聴衆約250名が、世界の現状に目を見開かされ、知ることの大切さを感じさせられた2時間でした。



### ◇私たちは無力ではない、微力なのだ。

「9・11」のアメリカの大惨事の後、世界がどうかなってしまう、何かなくてはと思ひ、「100人村基金」を創設し、アフガニスタンだけでなく、世界中の基金を必要としているところに寄付することにした。日本のNGOの若者たちは、世界で公正果敢に活動し、日本の評価を高めている。

### ◇貧困から抜け出す鍵は女性への教育

貧困状態にある人々に無担保で少額融資を行うバングラデシュのグラミン銀行の借り手のほとんどが女性で、運用成績もよく生活の安定に大きな成果を上げている。この融資を受けるためには、申込書と返済計画を自分たちで書いて出さなければならない。女性が基礎的な読み書き計算ができることが、貧しさから抜け出す大きな鍵になっている。

### ◇男性の自殺者が多いのは\*ジェンダーの問題

年間の自殺者3万人余のなかで壮年・中年の男性が非常に多い。日本は男性が弱みを見せられない社会になっている。泣いたり笑ったりすることで、ストレスは発散される。これから男性もどんどん弱音を吐いてほしい。豊かさだけが幸せではなく一人ひとりが自分らしく生きられることが幸せ。

\*ジェンダー:「女らしさ、男らしさ」や「女、男はこうあるべきだ」といった歴史的、社会的、文化的に人々の意識の中で形成された性別。

### 幸せの5つの条件

ドネラ・メドウズ

- 1つめは、きれいな空気と土と水
- 2つめは、災害や戦争のためにふるさとを離れなくてすむこと
- 3つめは、予防をふくむ基礎的な医療を受けられること
- 4つめは、基礎的な教育を受けられること
- 5つめは、伝統文化に誇りを持ち、それらを楽しむことができること。

この5つがあるところでは、そのまん中に子供たちの笑い声があふれているはず。もちろん大人たちの笑顔も

### ●参加してくださった方の感想から●

- ☆世界で今何が起きているかということが分かり、何かしたい気持ちになった。
- ★飾らない先生の語り口、すてきでした。世界の中の一人として、日本の中の一人として、諏訪の中の一人として、何かできるか考えていきたいと思ひます。
- ☆人間らしく生きようと思った。人には差別しない。ボランティアに目覚めた。
- ★すべて納得し、共感できるお話でした。私も私の意志で何かをしなければ……。今の自分の幸せに感謝します。

# 『日本女性会議2009せかい』に参加して

## 山の動く日きたる ～ジェンダー平等の宇宙へ～

10月30・31日堺市にて、第26回日本女性会議が開催されました。すべての人がその個性と能力を輝かせる社会を築くため、与謝野晶子を生んだ堺から世界へそして宇宙へとジェンダー平等を発信しました。

### 第1分科会 政策決定の場にもっと女性を ～女と男でフィフティ&フィフティ～

パネリスト3人のうちの1人で日本初の女性市長となった前芦屋市長北村春江さんのお話は印象に残りました。1928年生まれで数少ない女子学生として大学を卒業。しかし当時の社会では女子の大卒は就職の邪魔でしかなく、男女が等しく働くためには資格が必要と司法試験に挑戦、弁護士になり自分に力をと努力。教育問題でお母さんたちの強い要請を受け市長選に立候補し当選。その選挙の時に男性の対立候補から言われた言葉は、「地方行政に女性は無理です。」(前市長のことば)2期目の時は、「平時ならよいが有事の時は男でなくては無理です。」(これは1期目の最後の年の1月阪神淡路大震災に遭遇。8万人中500人死亡、50%の家屋倒壊。その復興中でした。)さらに、「戸惑いがなければ嘘になりますよ。」(助役のことば)しかし、結果は当選し3期市長を務め、市政に女性の声をと努力されました。女性の進出の仕方としてまず数で勝負し、中味で勝つこと。特に地方行政において女性の目が必要であることを実感されたそうです。実体験から話されたこれらの言葉は説得力があり、白いパンツスーツで壇上から颯爽と去る姿はとて80歳を超えている方とは思えませんでした。

宮坂 洋子さん

### 第16分科会 晶子からのメッセージ「時代の《今》に響きあう、晶子の生き方」

与謝野晶子の研究者である教育学者、歌人、大学教授の3人のパネラーが、女性の自尊・自律と地位向上に向けて、生活体験から生まれるメッセージを提起し続けた晶子について熱く語り合った。

- 男女平等を繰り返し発言し続けた晶子の思想とは。・・・晶子の思想の支柱となった「自我」に基づいた「近代性」は家庭環境・学校教育・読書によるものであり1912年のフランスへの渡欧で「教育」が重要課題であると再認識。東洋思想を踏まえつつ、西洋近代哲学思想を導入、受容し、「20世紀は男女の世紀でありたい。」と願った。男女に能力の差はない。男女の協力が必要と唱えた。
- 現実的な思考の持ち主の晶子・・・平塚らいてうと晶子の「母性保護論争」でらいてうは「人類将来のため母性保護すべき」と唱えたのに対し、晶子は「男性の奴隷にならないためにも経済的・人権的に独立することを主張。国家の保護を求めることに反対」した。夫を含めた家族を扶養するために晶子は生涯働き続けた。
- 子どもとかかわるなかで晶子が抱いた男女教育の基本とは。・・・10歳くらいまで男女の能力は変わらないから、14・5歳までは男女を自覚させない教育をすべし。子供の自立を尊重し、子供とも対等・真剣に生きるべしと唱えた。
- 晶子がめざした道は「男女共同参画社会」・・・男女が対等な立場で責任を分担しあい、働きすぎの男性への「ワーク・ライフ・バランス」の追及にも視点は向いていた。日本で最初に「男女共同参画社会」を提唱した人は与謝野晶子であった。

鴨志田 明子さん

日本女性会議とは・・・1975年の「国際婦人年」と「国際婦人の10年」を契機に、1984年に名古屋市で第1回大会が開催されて以来毎年、女性の社会的地位の向上・男女共同参画社会の実現をめざして、全国各都市で開催されています。